



# ふるさと笠松の「ちょっといい話」 No.116



## 「笠松にはこんな素敵な青年が育っています！」

下の写真に写っている7人は、岐阜工業高等学校のサッカー部の部員さんです。この部員さんたちは一体何をされたのでしょうか？



5月の連休が終わった頃のことです。部活動の練習を終えた7人は、自転車で高校へ戻ろうとしていました。中野の交番の近くまで来たとき、瀬上さんはバスの停留所の屋根が風で倒れているのに気付きました。停留所の屋根は道路の1車線をふさいでいました。他の部員たちも足が折れて倒れている屋根に気付きました。部活が終わって早く学校へ帰りたい時です。みんなは、どんな気持ちだったのでしょうか？そのときの気持ちを尋ねてみました。

梅田 拓実さん      鷺見 享秀さん      中島 郷さん

市成 健伸さん      下谷 風太さん      瀬上 源太さん      高瀬 修河さん

部活帰りに道路をふさいでいたバスの停留所の屋根を撤去してくれた岐阜工業高等学校のサッカー部の皆さん。ありがとう。

- ①車が通れなくて困っているのすぐ直そう。
- ②車の人に迷惑だな。7人いるから動かせるだろう。
- ③地域の人には迷惑になっているだろうな。
- ④もっと倒れたら危険だな。
- ⑤人数がいるから道路から除こう。

こんな気持ちを持った7人は力を合わせて道路をふさいでいる停留所の屋根を動かしました。おかげで道路は車が通れるようになりました。「俺には関係ない！」「見て見ぬふりをしよう。」「知ったことじゃない。」という現代っ子が多い中、みんなのことを考えて自発的に行動してくれた7人を褒めたいですね。

右の写真をご覧ください。6月のはじめの頃に撮影しました。場所は笠松刑務所の北の通路です。写真の白い壁は刑務所の壁です。その通路は夏になると草が生い茂ります。歩く時に歩きにくさを感じるほどです。

その草を一人で刈り取っているお年寄りを見つけました。写真の奥のほうに写ってみえる方です。

お話を聞いてみると、「だれかから頼まれたわけではない。時間があるので除草している。売名行為ではなくボランティアなので、匿名にして欲しいし、顔が分かるような写真は撮らないで欲しい。」と言われました。

きっと、同じ様に人知れずボランティアを行っている町民の方は多いことでしょうね。



この「ちょっといい話」は笠松町のホームページの「道徳のまち」のバナーをクリックすることによって、第1号から最新号まで閲覧できます。見てください。また、この話のように「ちょっといい話」を見聞きされましたら、右まで教えてください。公民館 Tel 388-3926 FAX388-3233